



Japan Display Inc.

資本増強による財務基盤の抜本的改善及び 成長戦略「METAGROWTH 2026」の加速化

2023年2月10日

株式会社 ジャパンディスプレイ

- グローバルディスプレイ産業の市場環境が大変厳しい中、更なる事業モデル改革と収益向上の抜本策が必要不可欠
- この度の大幅資本増強と無借金化により、財務基盤を抜本的に改善し、成長戦略である「METAGROWTH 2026」を加速化
- 脆弱な収益構造の主たる原因は、当社がコモディティ競争に陥ったことによる既存商品の差別化の不十分さによるもの。即ち、当社が提供する独自の顧客価値の欠如
- 「METAGROWTH 2026」の「世界初、世界一」独自技術は、世界のトップテクノロジーカンパニーも認める、絶大なビジネスチャンス
- 「METAGROWTH 2026」の進化と深化を通じて当社の唯一無二の顧客価値を具現化し、収益基盤を飛躍的に強化



Japan Display Inc.

資本増強による財務基盤の抜本的な改善

施策

目的・効果

1

いちごからの200億円の新規借入金を原資に、INCJからの同額の借入金の弁済

資金調達（いちごからの借入金合計額480億円）

2

いちごがINCJより、当社に対する合計537億円の貸付金債権を譲受

INCJからの借入金を完済

3

いちごによる当社に対する150億円の債権放棄

資本増強、完全無借金化に向けた借入金削減、財務基盤の強化

4

INCJが保有する当社A種優先株式のすべてを無償取得、消却

将来の希薄化の回避（A種優先株式は普通株式に転換可能）

5

いちごの貸付金債権の合計額867億円をデット・エクイティ・スワップ（DES）発行価格1株当たり45円^{（注）}

資本増強、完全無借金化、財務基盤の強化

6

当社の新株予約権をいちごに割当て（総額1,736億円、行使価格1株当たり45円^{（注）}）をいちごに割当て

資本増強、資金調達、「METAGROWTH 2026」による成長の加速化、財務基盤の強化

（注）2023年2月9日時点終値

新株予約権発行による調達資金の使途



 PersonalTech For A Better World	1 《支出予定時期：2023年6月～2028年3月》 「世界初、世界一」次世代テクノロジーの継続的な創出のための研究開発	500億円
	2 《支出予定時期：2023年6月～2028年3月》 知的財産戦略の強化	200億円
	3 《支出予定時期：2023年6月～2028年3月》 経営基盤の強化と成長戦略に資するM&A	100億円
	4 《支出予定時期：2023年6月～2028年3月》 透明インターフェイスRaelclear・自由照明LumiFree・ライフサイエンス等の新規事業ローンチ	150億円
	5 《支出予定時期：2023年6月～2028年3月》 DX（デジタルトランスフォーメーション）のためのIT投資	100億円
	6 《支出予定時期：2023年6月～2026年3月》 eLEAP、HMO、HUD、メタバース向け超高精細ディスプレイ等新技術の量産化技術確立、脱炭素化・サステナビリティ推進、及び継続的な改良、生産性向上のための設備投資	300億円
	7 《支出予定時期：2023年6月～2025年3月》 事業成長を支えるための運転資金の補充（事業上必要となる資本的支出を含む）	375億円



Japan Display Inc.

成長戦略「METAGROWTH 2026」の加速化

2026年に向けた基本方針

「世界初、世界一」の独自技術により
社会と人の課題を解決し、
PersonalTech For A Better Worldを実現
価値創造をMETAGROWTH





“META”

「広範囲、高度、普遍的」を意味し、 JDIの今後の飛躍的な成長を表す

メタバースの市場拡大がJDIの成長にもリンク



**ディスプレイは現代社会の基盤技術
他の追随を許さない競争優位性を確立し、
社会の発展にとって不可欠な企業として顧客価値・社会価値を創造**



①

**「世界初、世界一」
テクノロジー
リーダーシップ**



②

**革新的な技術
飛躍的な成長**



③

**GreenTech・
サステナビリティ経営**

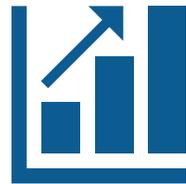


①

「世界初、世界一」
テクノロジー
リーダーシップ

- eLEAP（次世代OLED）、HMO（High Mobility Oxide）、メタバース向けの超高精細ディスプレイ、Raelclear（レルクリア：透明ディスプレイ）等、既に「世界初、世界一」独自技術で実証しているように、JDIはグローバルディスプレイ産業におけるテクノロジーリーダーシップを取り戻した
- この盤石な技術基盤をさらに強化し、飛躍的な顧客価値創出と株主価値向上を実現

※ Raelclearはジャパンディスプレイの商標です。eLEAPは仮称であり、商標登録出願中です。



②

革新的な技術
飛躍的な成長

- **グローバルディスプレイ業界はテクノロジー産業。
JDIも顧客もすべて テクノロジーカンパニーであり、
顧客ニーズは「高いコストパフォーマンス、最も優れたテクノロジー」**
- **圧倒的なコストパフォーマンスを有する eLEAP等、
「世界初、世界一」の独自技術を通じて顧客ニーズに対応し、
顧客の価値創造と競争優位性をサポート**
- **コモディティ競争に参加せず、唯一無二の革新的な技術で、
抜本的な収益力向上と飛躍的な成長を実現**



3

GreenTech・ サステナビリティ経営

- 環境性能に優れた eLEAP、HMO等、GreenTech技術により環境問題の解決に取り組むとともに、ESG意識が高い顧客の付加価値創出に寄与
- 企業の存在意義は社会貢献であり、サステナブル社会に資する経営を堅持
- 「世界初、世界一」への挑戦ができる会社として、社員一人ひとりの成長を支え、風通しの良い企業文化を促進

A large, curved collage of various images representing technology, business, and innovation. The collage is composed of many small, overlapping rectangular panels, each containing a different scene or concept. The overall color palette is dominated by blues, greens, and purples, with some warmer tones like oranges and yellows. The collage is set against a white background and is positioned on the left side of the page, curving towards the center.

6つの成長ドライバー

成長ドライバーの全ては当社の「世界初、世界一」独自技術 脱過当競争・脱コモディティ化により利益水準を大幅に向上

顧客提供価値

1 eLEAP (次世代OLED)

- 高輝度、長寿命、高精細GreenTech
- 幅広いサイズ・解像度に対応



2 HMO (High Mobility Oxide)

- 超低消費電力、高精細化、大画面化
- 基盤技術としてG8/G10へ適用可能



3 メタバース (超高精細ディスプレイ)

- 圧倒的なリアリティと没入感
- 高い歩留りと安定した品質



成長ドライバーの全ては当社の「世界初、世界一」独自技術 脱過当競争・脱コモディティ化により利益水準を大幅に向上

顧客提供価値

4

AutoTech

- EVに対応した統合コックピットの実現
- HUDの進化による安全性の向上



5

Raelclear (透明インターフェース)

- 世界最高の透過率
- 双方向コミュニケーションで社会貢献



6

新技術・新商品・新事業

- 独自技術の用途拡大
- 課題解決型の新規事業



eLEAP

- environment positive
 - Lithography with maskless deposition
 - Extr^eme long life, low power, and high luminance
 - Any shape Patterning
- 環境ポジティブ
 - フトリソとマスクレス蒸着
 - 超長寿命・省電力・高輝度
 - フリーシェイプ・パターニング



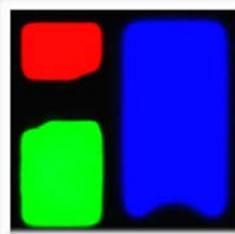
広発光領域でピーク輝度 2 倍または寿命 3 倍、フリーシェイプで明るく鮮明な画像を実現

高輝度 (2 倍)



従来OLED
28%

eLEAP
60%



既存技術では
想像できない
明るさ、
鮮やかさ、
フリーシェイプ



eLEAP

長寿命 (3 倍)

寿命比較	新品	1年後	3年後	5年後
	0h	1000h	3000h	5000h
従来OLED				
eLEAP				

* 600nits相当輝度で3h/day点灯の輝度劣化を想定したイメージ

**OLED蒸着用マスクを使用せず、洗浄不要で環境にやさしいプロセス
最大で年間15万tのCO2排出量が削減可能**

ECO

年間15万tのCO2排出量 =

CO2吸収量
杉成木
90万本



杉林面積
東京ドーム
3,700個



CO2排出量は第6世代基板30k sheet/月における当社試算

従来比4倍の高い移動度で消費電力を40%削減、高精細・大画面に展開

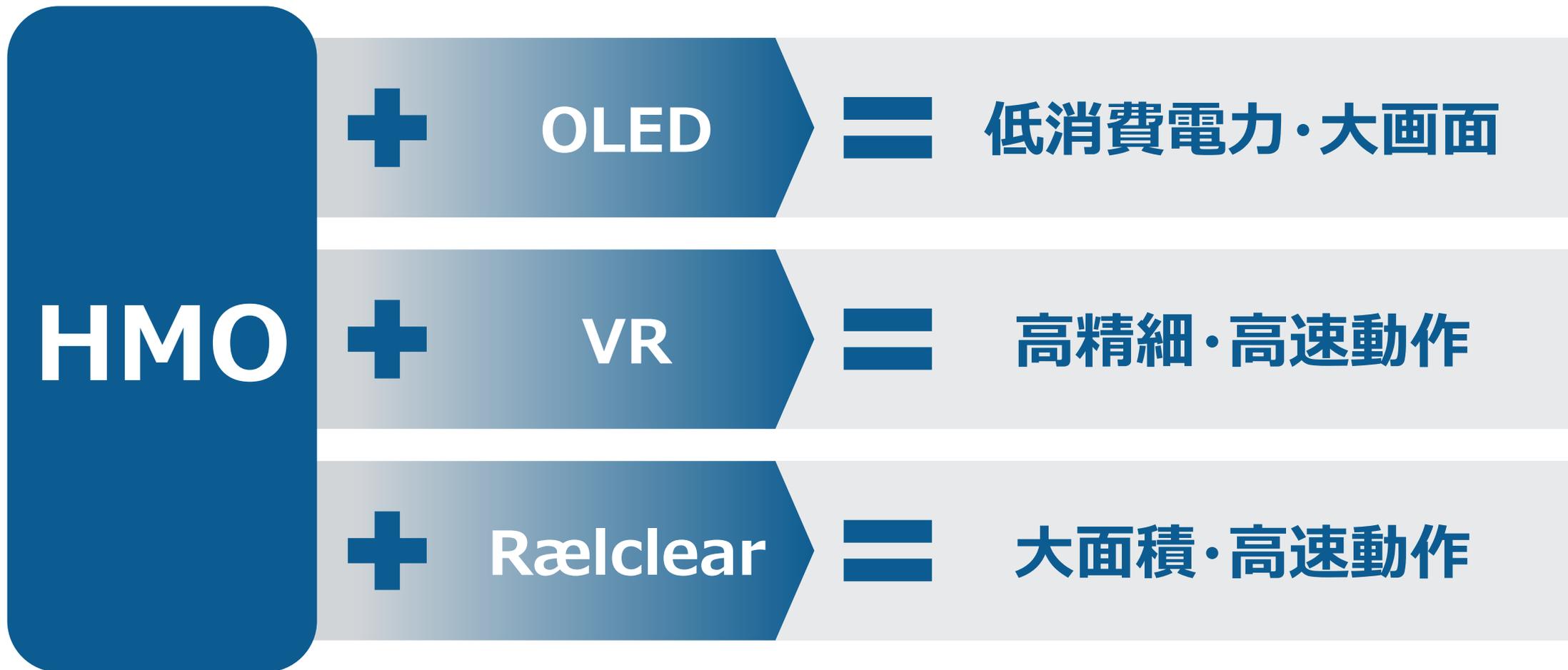
	従来OS	HMO	UHMO
移動度	12cm ² /Vs	36cm ² /Vs (従来比2倍以上)	52cm ² /Vs (従来比4倍以上)

従来OS
低精細・中小画面

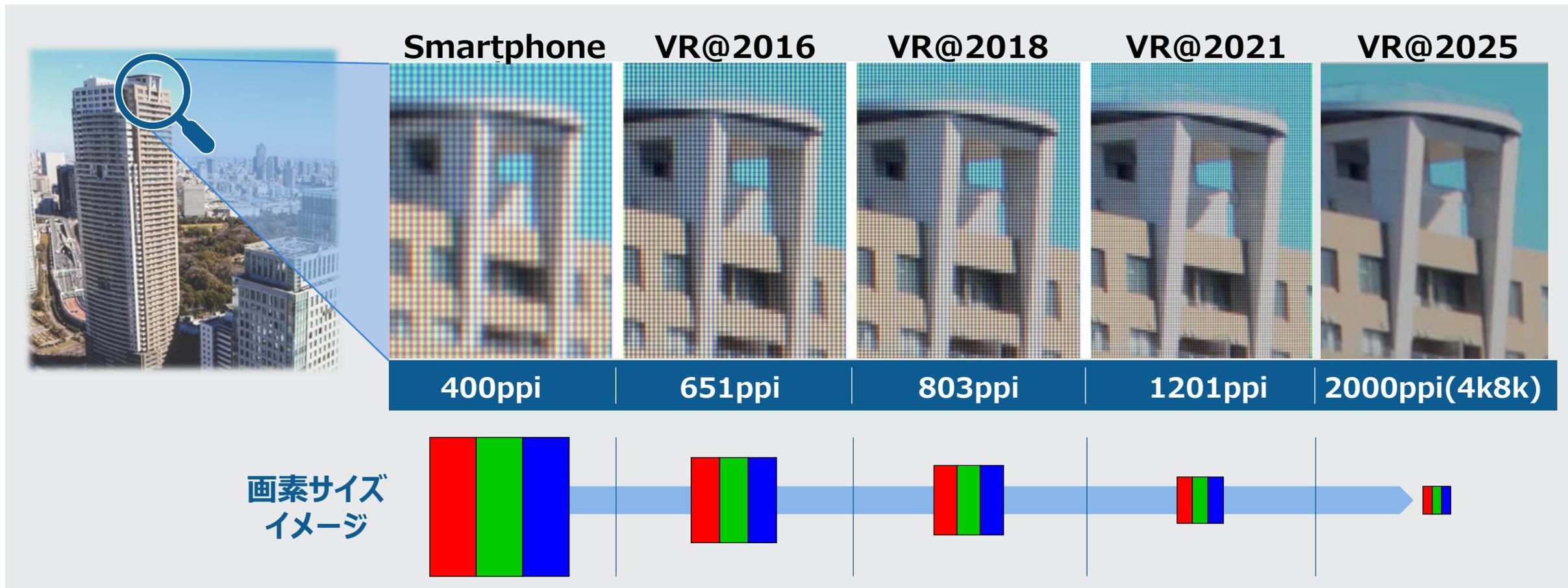


HMO/UHMO
高精細・大画面

様々なフロントプレーン技術と組み合わせることで付加価値を創造



超高精細パネルによる圧倒的な高画質とコストパフォーマンスを実現

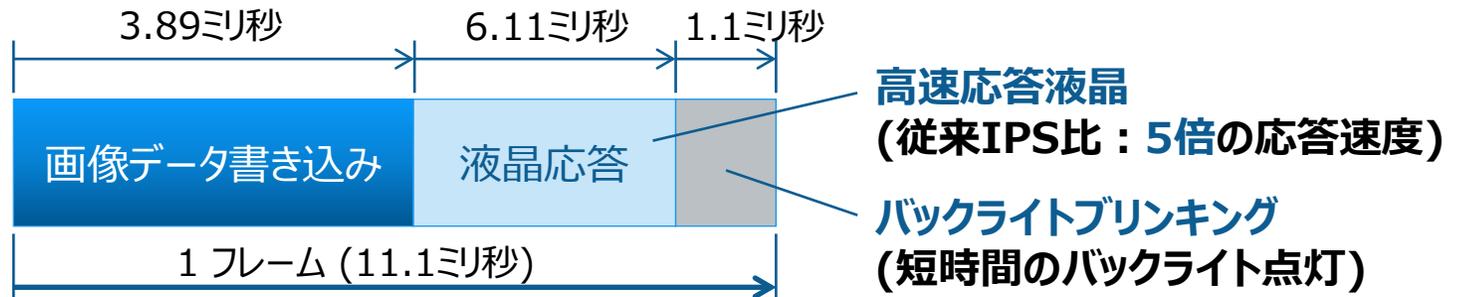


高速応答液晶 + バックライトブリンキングにより、鮮明な表示を実現

高速応答液晶	-	✓	-	✓
バックライトブリンキング	-	-	✓	✓
表示の見え方				
現象	ぼやけと歪み	ぼやけと歪み	ゴースト	鮮明な表示

駆動タイミング例

- 解像度 2160 x RGB x 2160
- リフレッシュレート 90Hz
- 1.1ミリ秒 グローバルブリンキング



解像度

4k x 4k / 片目
30PPD*¹以上 @ FOV*² 130度

1700~2500ppi
w/ Local Dimming

輝度

1,000cd/m²
パンケーキレンズ光学系に適した輝度

最適な画面サイズ

対角 2.x 型
広FOVと十分なアイボックスサイズの両立



表示時間 (インパルス型)

<0.5ミリ秒(BL点灯比率6%@120Hz)

HDR 適合性

コントラスト >100,000
色域 >DCI-P3 95%

リフレッシュレート

>120Hz
ビデオパススルーアプリケーションに適した
高リフレッシュレート

*1) PPD : Pixels per degree、視野角 1 度あたりのディスプレイ上画素数

*2) FOV : Field of view

HUDの高画質・高機能化により、安全で快適な運転支援ディスプレイを実現



HUDは、情報をフロントウィンドウに投射するため、ドライバーの視線移動が少なく安全性・利便性に優れ、今後さらに普及が進む



より見やすく

画質進化

- 高精細化
- 高輝度化
- 大型化

より臨場感のある

機能進化

- AR HUD
- 3D HUD

鮮明画質

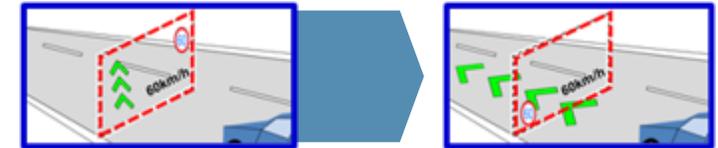


高精細・高開口率LTPS技術
高効率液晶技術

AR(拡張現実型) HUD



3D HUD



液晶レンズ・ライトフィールド技術

Rælclearは、「c」を起点に左右いずれの方向に読んでも「clear」と読めます。当社の「世界初、世界一」の独自技術により、世界最高の透過率を有することで、双方から鮮明に視認でき、唯一無二の双方向コミュニケーションを可能にしております。



高い透明度

JDIが独自に開発した液晶材料を用いることにより、他社透明ディスプレイを凌駕する84%の透明度を実現。

表からも裏からも見える（両面視）

透明OLEDやマイクロLEDではディスプレイ裏面から見た時の画像が鮮明でないのに対し、JDI透明ディスプレイは裏面からも画像が鮮明に映し出されます

【他社ベンチマーク】
※当社調べ

	JDI	透明OLED			マイクロLED
メーカー		A社	B社	C社	D社
透過率	84%	45%	68%	70%	60%
両面視	◎	×	×	×	×

会議で透明ディスプレイを囲んで画面を共有



カラー表示により写真等の情報を伝達



耳の不自由な方とのコミュニケーションに威力を発揮



周囲を邪魔しないデザインなのでインテリアにも



キッチンで料理のレシピを見ても

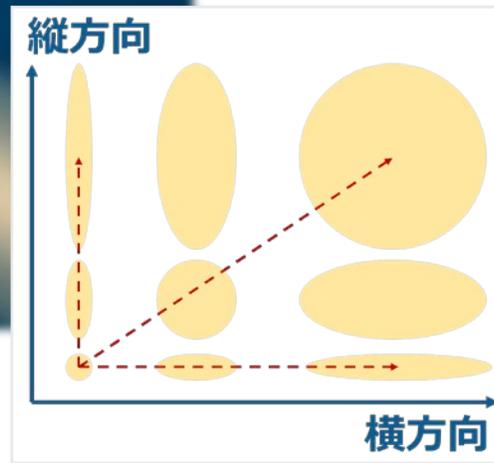
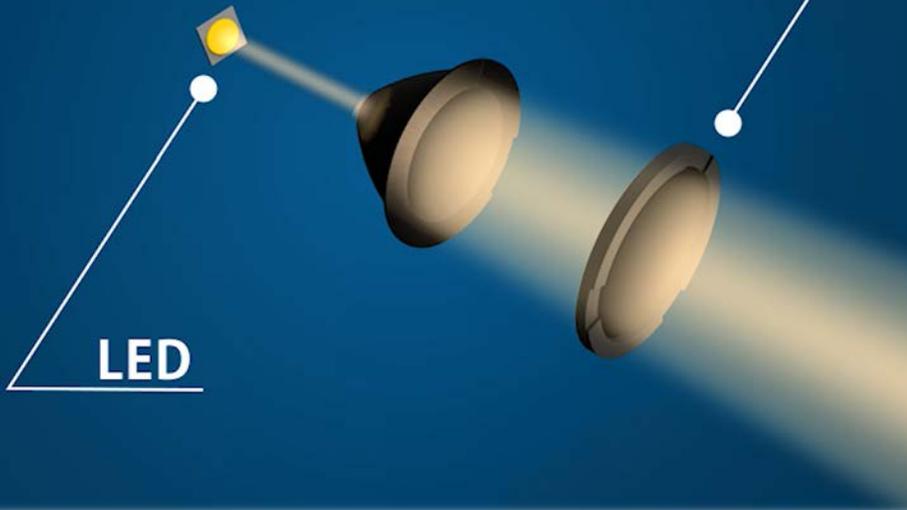


お子様への絵本の読み聞かせに

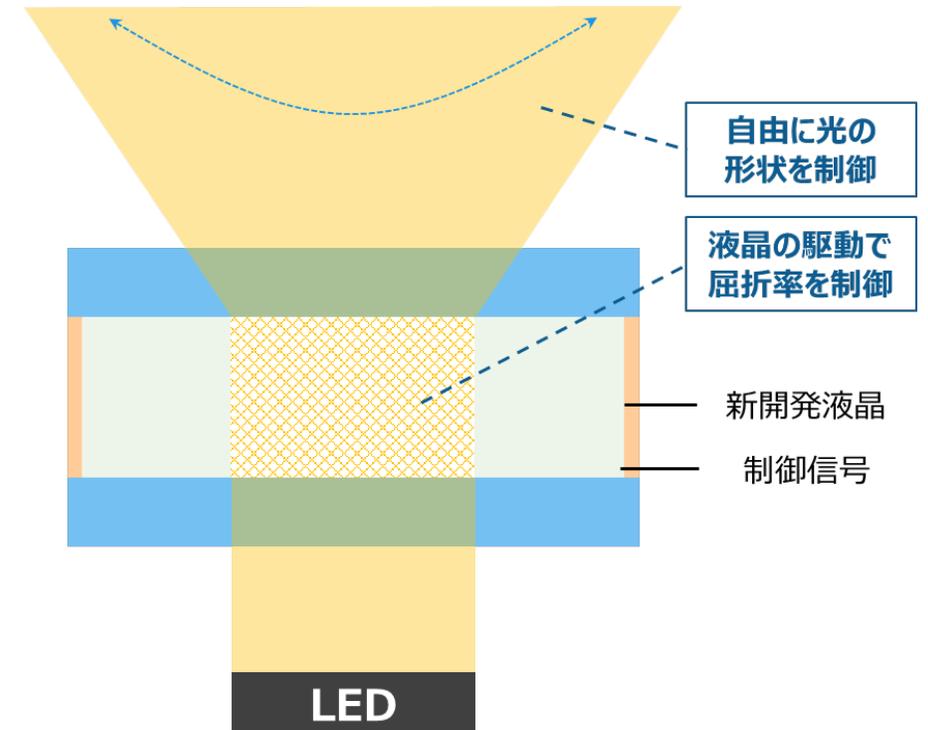
社会課題を解決する「LumiFree」を新規開発。 これまで困難だった光の広がり方（配光）を自由に制御することが可能に

LumiFreeは「光を縦・横の2軸で微細に制御」を実現しており、利用シーン毎で求められる「最適な光」の提供が可能に。

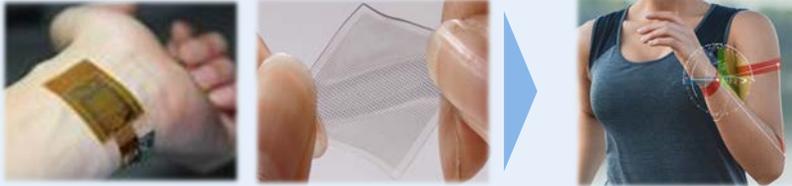
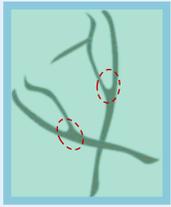
LumiFree



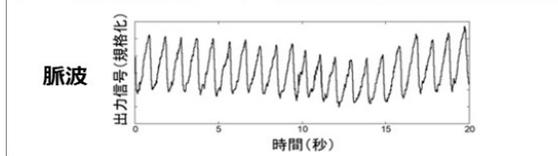
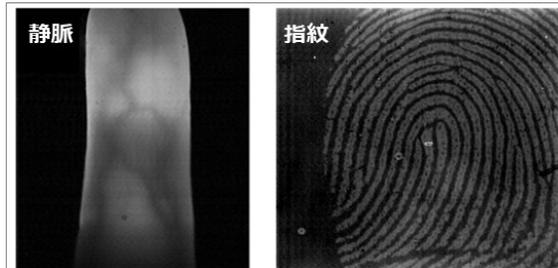
LumiFree 製品構造



TFTの技術を応用し、薄い、軽い、曲がる、大型のマトリクスセンサーを実現 身に着けていられる (=ウェアラブル) 生体センサーに応用

	特長	ユースケース
フィルム基板	薄い、軽い、曲がる	身に着けていられる 
LTPS/HMO	大型・高精細・コンパクト 高速動作	精密・正確な生体センサー 最適スポット  様々な計測
マトリクスセンサー	測定範囲が広い 画像化が可能	指紋撮像  静脈撮像  複数の特徴点を取得可能

測定例



本研究の一部は国立研究開発法人科学技術振興機構の支援を受けて実施しました。



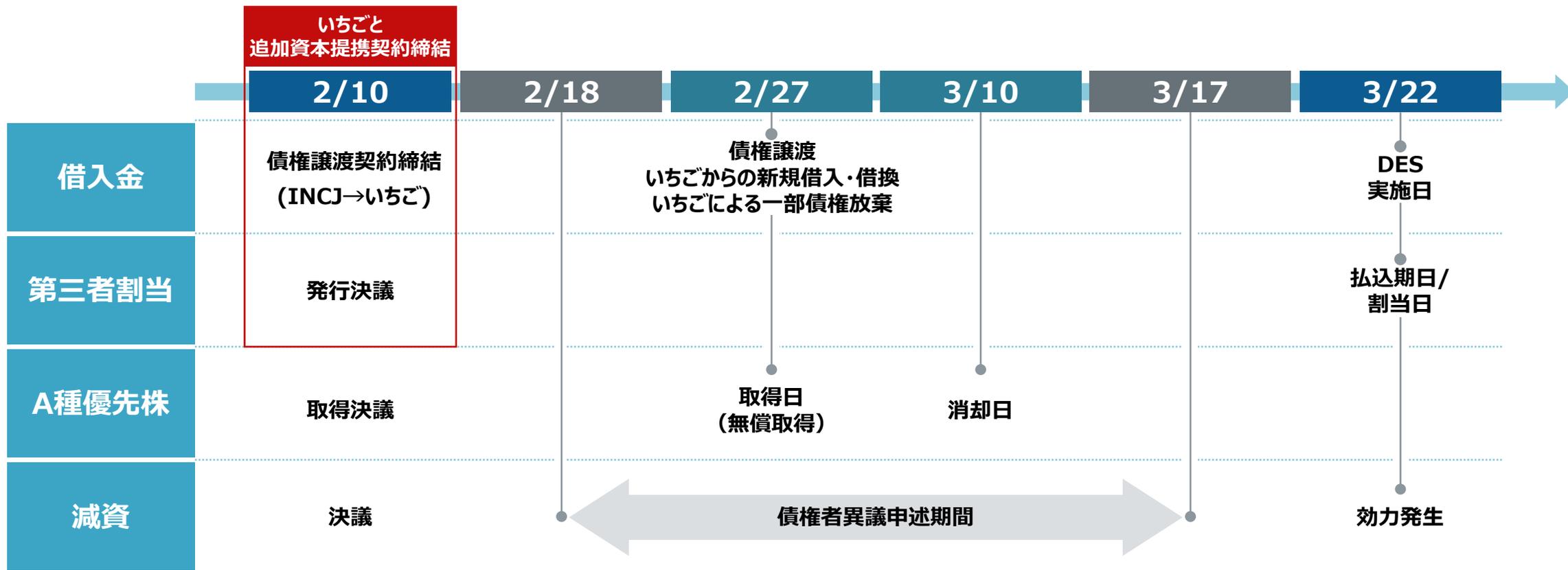
Japan Display Inc.

APPENDIX

需要減・コスト増への抜本対策として不可欠である成長戦略「METAGROWTH 2026」を加速化

	事業環境	対策
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> 欧米：液晶ディスプレイ需要は漸減継続中 中国・その他：スマートフォン市場の低迷が継続中 	<ul style="list-style-type: none"> 23年度1Qから当面の間、茂原工場でのスマホ用ディスプレイの生産を大幅縮小し、生産能力を落として固定費を削減
車載	<ul style="list-style-type: none"> 自動車需要は引き続き堅調も、アナログIC不足による自動車メーカーの生産調整は当面継続見通し インフレやガソリン価格高騰による自動車需要の減退リスクを要注視 	<ul style="list-style-type: none"> 確実な部材調達による出荷最大化を目指しつつ、在庫管理を徹底 コスト増分の販売価格への転嫁の交渉を継続
ノンモバイル	<ul style="list-style-type: none"> インフレ影響等により、民生機器全般で需要が低迷 一部製品向けで部材不足継続 足元需要減退も、顧客の新製品開発意欲は健在 	<ul style="list-style-type: none"> 23年2月、eLEAPの初受注。24年度から出荷開始 新製品の立ち上げ加速 メディカル・ライフサイエンス分野の開発を推進
全体	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境悪化により資金対策の必要性拡大 円安・インフレにより部材・エネルギー・輸送費が高騰 地政学的リスクによるサプライチェーン混乱懸念継続 	<ul style="list-style-type: none"> 抜本的な財務体質改善施策を発表 中国製造子会社売却、東浦工場の生産停止による固定費低減、費用削減を継続 リスクに備えた部材在庫確保と代替供給網の確保

本年3月末までのスケジュール



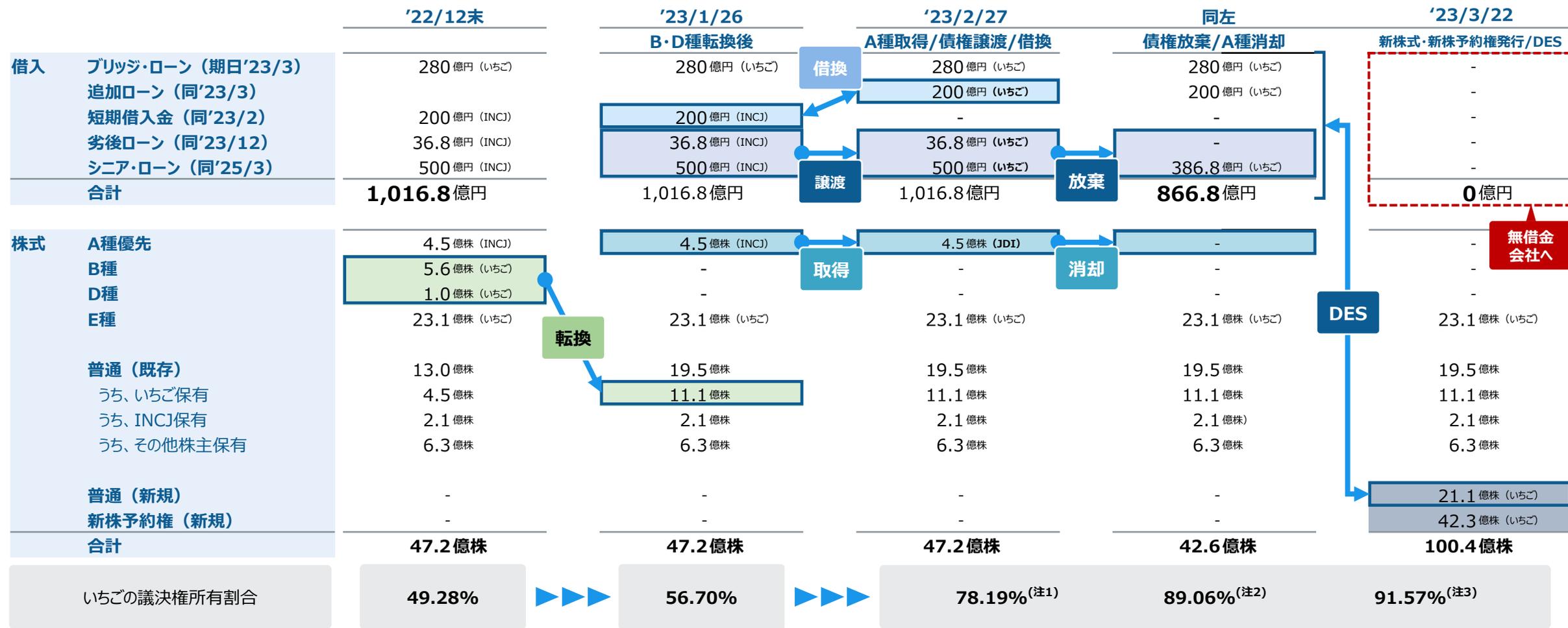
普通株式の時価発行及びDESにより大幅資本増強し、新株予約権の時価発行により中長期成長資金を確保

	主要条件	資金使途等
普通株式	1. 発行価額：45円@'23/2/9終値 2. 発行価額の総額：866.80億円 3. 発行新株式数：19.26億株	DES: 866.80億円 <ul style="list-style-type: none"> 負債の大幅圧縮・無借金化と資本の大幅増強を実現 現物出資の目的とする財産：いちごが当社に対して有する貸付金債権計866.8億円
第13回 新株予約権	1. 調達資金総額：1,735.60億円 2. 新株予約権発行による調達額：2.00億円 <ul style="list-style-type: none"> 発行個数：100個 発行価格：1個につき200万円 3. 新株予約権行使による調達額：1,733.60億円 <ul style="list-style-type: none"> 新株予約権の目的となる株式：普通株式 行使価額：45円@'23/2/9終値 潜在株式数：38.52億株 4. 行使期間：2023/6/1～2028/11/30 ^(注1)	「METAGROWTH 2026」達成に向けた必要資金:[1,725.60]億円^(注2) <ul style="list-style-type: none"> ① 「世界初、世界一」次世代技術の継続的創出のための研究開発：500億円 ② 知的財産戦略強化：200億円 ③ M&A：100億円 ④ 透明インターフェイス・自由照明・ライフサイエンス等の新規事業ローンチ：150億円 ⑤ DXのためのIT投資：100億円 ⑥ eLEAP等新技術の量産化技術、脱炭素化・サステナビリティ推進、及び継続改良のための設備投資、生産性向上：300億円 ⑦ 運転資金（事業上必要となる資本的支出を含む）：375.60億円

1. いちごの追加資本提携契約において、第13回新株予約権の行使期間を段階的に到来する形に設計
 ① 50個：2023年6月1日から2028年5月31日まで
 ② 50個：2023年12月1日から2028年11月30日まで
 2. 差引手取概算額を記載

資本増強による負債及び株式（潜在株式数）の変化

- 資本増強実行により、当社の財務内容は抜本的な改善が図られ「無借金会社」へ
- いちごの議決権所有割合は78.19%に上昇



1. 普通株式（新規）の第三者割当後のいちごの議決権所有割合
 2. 普通株式（新規）の第三者割当後、第13回新株予約権の行使により潜在株式が全て普通株式に転換された場合のいちごの議決権所有割合
 3. 普通株式（新規）の第三者割当後、第13回新株予約権の行使及びE種優先株式の取得請求権の行使により潜在株式が全て普通株式に転換された場合のいちごの議決権所有割合

優先株式の普通株式への転換（2023年1月26日公表済）



1月26日付でいちごが保有するB種優先株式／D種優先株式の普通株式への転換が完了
 いちごの当社に対する議決権所有割合は49.28%から56.70%に高まり、当社の支配株主に該当

当社の発行済株式総数の状況

株式の種類（株主）	転換前	増減数	転換後
普通株式	1,296,165,800 株	+658,000,000 株	1,954,165,800 株
うち、いちご保有分	450,000,000 株	+658,000,000 株	1,108,000,000 株
A種優先株式 (INCJ)	1,020,000,000 株	—	1,020,000,000 株
B種優先株式 (いちご)	372,000,000 株	-372,000,000 株	0 株
D種優先株式 (いちご)	500 株	-500 株	0 株
E種優先株式 (いちご)	5,540 株	—	5,540 株

転換比率
1 : 1.5

転換比率
1 : 200,000



- 上記「議決権数」には、E種優先株式に係る潜在株式数は含めておりません。
- 転換前の「議決権所有割合」は、2022年9月30日時点における総議決権数16,681,253個を分母として計算しております。
- 転換後の「議決権所有割合」は、2022年9月30日時点における総議決権数16,681,253個に2023年1月26日付のB種優先株式及びD種優先株式の普通株式への転換により増加した議決権数2,860,000個を加えた19,541,253個を分母として計算しております。
- 「議決権所有割合」は、小数点以下第三位を四捨五入して記載しております。
- 本転換に伴い自己株式となるB種優先株式372,000,000株及びD種優先株式500株が消却された前提の株式数及び議決権数を記載しております。
- 本転換により、当事業年度末（2023年3月31日）において、当社の流通株式比率が東京証券取引所プライム市場の上場維持基準である35%以上に適合しない状況となる見込みとなりました。この場合、東京証券取引所の規則上、原則として1年以内の上場維持基準に適合する必要がありますが、第三者が事業再生を支援するために一定の上場株券等を所有する場合で、5年以内の上記の上場維持基準に適合する見込みを有すると東京証券取引所が認めるときには、5年間（又は東京証券取引所が認めた期間）の間、上場が維持できるとの特例があります。当社は、本転換に際して当該特例の適用を受けるために、5年以内の適合に向けた具体的な計画を、東京証券取引所が定める期限である事業年度末後3か月以内となる本年6月末までに公表する予定です。



PersonalTech For A Better World